

｜ 平成 23 年度 ｜

びわ湖ホール

# 劇場サポーター活動記録集



滋賀県立芸術劇場

---

びわ湖ホール

BIWAKO HALL CENTER FOR THE PERFORMING ARTS.SHIGA

# はじめに

いい舞台を見ると、それについて誰かに話したくなります。舞台芸術は人の知性や感性を刺激し、開放的にします。話題作、問題作は新聞、雑誌、近年ではインターネットを通じて議論や論争を巻き起こすことがあります。芸術の歴史をひもとけば、舞台芸術の上演が政治や社会に大きな影響を及ぼしたことも珍しくありません。

舞台芸術は劇場だけで完結しているのではなく、社会と連続性を持っていて、相互に影響を与えあっていることは自明のことですが、社会的な関心が高まれば高まるほど舞台芸術の情報が多くの人たちに伝わり、劇場にとっては結果的に観客増になるという良いサイクルが生じればありがたいことです。

びわ湖ホール劇場サポーターは、ホールがオープンする2年度前の1996（平成8）年度から活動を始め、近く、17期のサポーターの皆さんを迎えることとなります。劇場サポーターの皆さんは観客の代表であると同時に、劇場と社会をつなぐ役割を果たしていただいています。

最近、ほとんどの自主事業の公演では、休憩中のホワイエで劇場サポーターの人たちが感想を言い合ったり、議論をする輪ができています。この輪がもっと広がり、びわ湖ホールの公演が多くの人たちの話題にのぼることを期待したいと思います。

去年は東日本大震災という大きな災害がありました。遠く離れているびわ湖ホールには、もちろん直接の被害はありませんが、震災と原子力発電所の事故からの復興は我が国が当面する大きな課題になっています。被災地から離れたところの劇場や舞台芸術が復興のために直接できることは少ないと思いますが、人々の心を活性化させ、希望を生み出すことは出来るはずで、びわ湖ホールが舞台芸術を通して社会的な貢献ができるよう、劇場サポーターの皆さんの活躍を期待しています。

平成24年（2012年）3月

公益財団法人びわ湖ホール

理事長・館長 井 上 建 夫

## 目 次

---

### 平成 23 年度 劇場サポーター研修の概要

第 1 回 舞台芸術基礎講座〈オリエンテーション（舞台見学）編〉 …	1
第 2 回 舞台芸術基礎講座〈劇場用語・舞台用語編〉 ……………	2
第 3 回 舞台芸術基礎講座〈オペラ編〉 ……………	3
研修・稽古見学・その他 ……………	4

平成 23 年度 劇場サポーター自主活動の概要 ……………	6
-------------------------------	---

平成 23 年度 劇場サポーター運営要綱 ……………	7
----------------------------	---

劇場サポーターの声 ……………	9
-----------------	---

---

# 平成23年度劇場サポーター研修の概要

## ◎ 舞台芸術基礎講座

### 第1回基礎講座

#### 〈オリエンテーション&舞台見学〉

日時 平成23年4月3日(日) 13:00～15:30

場所 びわ湖ホール 大ホール・研修室

■ あいさつ 井上 館長

■ 劇場サポーター活動について

■ 第16期サポーター自己紹介

■ びわ湖ホール大ホール施設見学



## 第2回基礎講座 〈劇場用語・舞台用語編〉

日時 平成23年9月4日(日) 14:00～16:30

場所 びわ湖ホール 研修室

### ■ 講 義

標 題：「音響デザイナーに聞く！舞台と音の生み出す魔法」

講 師：小 野 隆 浩 氏（音響デザイナー／びわ湖ホール舞台制作室室長）

講義内容：劇場や舞台にまつわる知られざる秘密を、専門用語の解説や国ごとの劇場設計にまつわる事情なども交え、たっぷりとお伝えいたしました。また、オペラ公演の音響設計について、マイクを使って実験を行いながら専門的に解説いたしました。  
講座の後、「お江の時代と音楽」と題し、NHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の関連企画として開催いたしました、「アントネッロ 古楽アンサンブル～西洋音楽との出会い～」(10月10日〔月・祝〕)、および「ガブリエリの響き～天正少年使節が聴いた音楽～」(10月16日〔日〕)の見どころについて制作担当よりご案内いたしました。



## 第3回 基礎講座

### 〈オペラ編〉

日 時 平成24年1月14日(土) 13:00～14:30

場 所 びわ湖ホール 研修室

#### ■ 講 義

標 題：「今、改めて考える オペラの現代性について」

講 師：中 村 敬 一 氏（オペラ演出家）

講義内容：びわ湖ホールが毎年、総力をあげて制作しているオペラ公演—サポーターの皆さんの中にも多くのファンを持つこのジャンルについて、改めてその起源や、時代を経るごとに変化を遂げてきた制作過程などについて、お話いただきました。そもそも演出家とはどういった理由からオペラ制作に必要とされるに至ったのか？指揮者が職業として成り立つにいたった経緯とは？「楽譜」の誕生はいつ頃か？—知っているようで知らなかったオペラの今日に至るまでの軌跡が、様々な観点から紐解かれました。いくつもの時代をまたぎ、台本が執筆され、上演が重ねられてきたオペラという作品を鑑賞する上で、現代性とは一体どの観点から語られるべきなのか。今後の公演鑑賞がより一段と面白く、そして有意義になりそうな問いがなげかけられました。



## ◎ 研修・稽古見学・その他

### 『わくわく☆ドキドキ♥劇場探検ツアー』ゲネプロ見学

日 時 平成 23 年 8 月 26 日 (日) 20 : 00 ~ 22 : 00

場 所 びわ湖ホール 大ホール

- ゲネプロの見学

### アンサンブル・ラロ（ピアノ四重奏団） レクチャー・コンサート

日 時 平成 23 年 10 月 19 日 (水) 19 : 00 ~ 20 : 00

場 所 びわ湖ホール 小ホール

- 出演者、ヘーデンボルク・直樹氏による曲目解説を交えたコンサート

### 沼尻竜典オペラセレクション 歌劇『ドン・ジョヴァンニ』プレトーク・マチネ

日 時 平成 23 年 10 月 29 日 (土) 14 : 00 ~ 16 : 00

場 所 びわ湖ホール 小ホール

- 指揮者の沼尻竜典氏らによる公演の観どころ、聴きどころの解説とキャストによる演奏。

## びわ湖ホールプロデュースオペラ 歌劇『タンホイザー』関連企画への参加

### ○ プレトーク・マチネ

日 時 平成24年2月5日(日) 14:00～

場 所 びわ湖ホール 中ホール

- 指揮者の沼尻竜典氏らによる公演の観どころ、聴きどころの解説とキャストによる演奏。

### ○ ゲネプロ見学

日 時 平成24年3月8日(木)・9日(金) 14:00～

場 所 びわ湖ホール 大ホール

- 本番直前の総稽古見学

### ○ オペラ・ワークショップ

日 時 平成24年3月11日(日) 10:00～

場 所 びわ湖ホール 大ホール

- 舞台装置や舞台衣裳の解説など。

※ プレトーク・マチネ、オペラ・ワークショップは一般の方向けの企画ですが、サポーターも参加しました。

## ◎ 舞台芸術 公演鑑賞研修

様々な舞台芸術に触れていただくため、びわ湖ホールの主催公演を「オペラ・オーケストラ・声楽アンサンブル編」「演劇・ダンス編」「室内楽編」の3ジャンルに分け、各編より1公演ずつ、年間計3公演を観ていただく「公演鑑賞研修」を実施しました。

# 平成23年度劇場サポーター自主活動の概要

## 1. サポーターの集い・分科会（ジャンル別）の開催

- (1) 4月 3日(日) 分科会（新規サポーターを交えた茶話会）
- (2) 5月22日(日) 分科会（ダンスとは一体どんなものか？ととりあえず映像で見てみよう！！）
- (3) 6月 4日(土) ハイキング（奈良 春日山原生林の新緑を満喫します）
- (4) 6月12日(日) 分科会（新職員さんとお昼・お茶を一緒にしながらのお楽しみ会）
- (5) 6月25日(土) 分科会（オペラへのお誘い！！）
- (6) 7月 3日(日) 分科会（マクミラン版《ロミオとジュリエット》を見てみよう！）  
ナイト・サマーパーティー 真夏の夜！びわ湖畔で歌おう、しゃべろう！
- (7) 8月20日(土) 分科会（納涼お茶会/サポーター活動や公演鑑賞などの近況を話し合いましょう！）
- (8) 10月 1日(土) 分科会（ボローニャ歌劇場日本公演2011に来日できなかった主役テノール歌手のみなさんを応援・追悼するミニ・コンサート）
- (8) 10月 2日(日) ハイキング（早秋のサポーターハイキング 近江坂本六地藏巡り）
- (10) 11月13日(日) 分科会（パフォーマーの醍醐味～好きな音楽をBGMにして絵本や詩を読み語る！）
- (11) 12月10日(土) 分科会（音楽業界 おもしろゼミナール！）  
クリスマスパーティー 今年も公演たくさん楽しみましたね！びわ湖畔でおしゃべり！
- (12) 1月29日(日) 分科会（新春茶話会～公演鑑賞のマナーなどについて話し合いましょう！）
- (13) 2月25日(土) 分科会（お昼ごはん食べながらお話ししましょう！会）

## 2. サポーター通信の発行

サポーター同士のコミュニケーションを図り、びわ湖ホールをはじめとする、あらゆる舞台芸術の面白さを外部に向けて発信することを目的とした「サポーター通信」は、1998年10月から1999年6月までに創刊準備号として3号を、2000年には名称を“Harmonia”（ハルモニア）として昨年までに創刊号～第27号を、そして、今年第28号、29号を発行しました。

## 3. サポーターメーリングリスト

サポーター同士の連絡・交流用に、メールアドレスを持っているサポーターを登録し、公演の感想やミニレクチャーなどに幅広く活用されています。

# 平成23年度びわ湖ホール劇場サポーター運営要綱

## 1. 趣 旨

地域や職場、友人など、人のネットワークを生かして、びわ湖ホールとそこで上演される舞台芸術を生活に身近なものと感じる愛好者の輪を広げることを目的に、びわ湖ホール劇場サポーター（以下「劇場サポーター」という）を設置します。

## 2. 劇場サポーターの役割

- 舞台芸術についての情報およびびわ湖ホールで催す公演の情報を、口コミやチラシ配布などにより地域や職場の方、お友達に広く伝え、観客創造につなげていただきます。
- 舞台芸術に関する基礎講座やワークショップを受講し、知識を深めていただきます。
- 公演内容や運営について、ご自身やお知り合いの方々の感想や反応等をまとめて報告していただきます。
- 劇場サポーター通信の発行や勉強会、交流会などの自主活動を通じて、ネットワークづくりを進めていただきます。
- 公演運営のお手伝いをお願いすることがあります。

## 3. 劇場サポーターの定員と登録

公募により選ばれた方を劇場サポーターとして登録し、定員は約100人、登録期間は3年間とします。任期終了後、1回に限り再応募することができます。（最長任期6年）

## 4. 平成23年度活動

- (1) 舞台芸術に関する研修の受講
  - ・基礎講座
  - ・ワークショップ
  - ・舞台稽古の見学、プレトーク等の関連事業への参加
- (2) 舞台芸術の公演鑑賞研修

劇場サポーターの舞台芸術に対する理解を深めるため、びわ湖ホール主催公演をジャンルごとに選択し、鑑賞していただきます。
- (3) 舞台芸術情報やびわ湖ホールにおける公演情報の地域や職場、友人等への広報
  - ・口コミによるPR活動
  - ・チケット予約の受付

- (4) 舞台芸術に関する地域の情報、およびびわ湖ホールにおける公演に関する友人などの感想や反応等の報告
- ・劇場サポーターレポートの提出
  - ・活動記録集用の原稿提出
- (5) 自主活動
- ・分科会、交流会などの開催
  - ・劇場サポーター通信 (Harmonia) の発行

## 5. 劇場サポーターの内訳

### 【期別】

14期	27名
15期	43名
16期	50名

### 【年齢・性別】

男性	33名
女性	87名
10代	1名
20代	11名
30代	10名
40代	22名
50代	29名
60代～	47名

### 【住所別】

●滋賀県	85名
大津市	56名
草津市	56名
守山市	1名
栗東市	3名
野洲市	1名
湖南市	3名
甲賀市	5名
東近江市	2名
彦根市	2名
高島市	1名
愛知郡愛荘町	1名
●京都府	19名
●大阪府	7名
●兵庫県	5名
●奈良県	4名

---

計 120名

# 劇場サポーターの声

## 劇場サポーター 感想 と 活動記録集

平成 24 年 2 月 17 日 14 期 川口 美保子

館長の「サポーターの誘いが無かったら びわ湖ホールの扉が開かなかったかもしれない」を 肝に銘じて サポーターをスタートしてから 6 年。 もうすぐ任期が終わります。私は昭和 35 年頃 狂言も地方公演をされてた頃 鑑賞しました。その経験から「本物を・良いものを 若い内に」と若い方を主にしました。

前 3 年はパンフも沢山送っていただき 気のついた所に あちこちと手渡ししました。喫茶店・ケーキ屋・美容院・ディーラー・仕事で廻るところでは「兼ねてはダメだけどね」と言いながら・もちろん近所・ボランティアサークル・受けている市民講座生などなど。ガールスカウトの多くの団に何回かメイトの案内も。PTAの下校時交通安全見守り当番には「メイトの制度」が有るからとも。

県外からの下宿やマンション住まいの大学生には「学生割引の有る内に、」「滋賀県に居る内にびわ湖ホールに行ってねと。」

1 年目 最初の取り纏めは 9 月の歌舞伎「勘三郎襲名披露公演」。近所の取り纏めの方と 9 名が鑑賞出来ました。近場のびわ湖ホールだからこそ喜んでいただきました。有る家庭は親・子・孫など家族で鑑賞、それ以来 県外（大阪など）の友人と定期的びわ湖ホテルの宿泊をされ 古典芸能や コンサートを楽しまれてる方もおられます。

青少年オペラを主に PR。「森は生きている」では お婆ちゃん・嫁さん・孫と一家三代 4 人が鑑賞。しばらくは 「燃一えろ・燃えろ」と家で唱っていたそうです。

私は「野村万作狂言会」では 狂言謡の素晴らしさに至極の時間を過ごしました。この活動記録を書くにあたり古いプログラムを発見。昭和 42 年の観世会館の 能「正尊」に シテ元昭・ 間 万作を見つけ驚きです。（当時のチケット¥3000 にビックリ）主人も私のサポーターを配慮してくれて 渋りながら 大江能楽堂 観世会館 京都コンサートホール びわ湖ホールのオペラや「第九」などに来てくれました。

ケイブン主催「ウィーンの森 バーデン劇場」の 「ドン・ジョヴァンニ」「ボエーム」「カルメン」を鑑賞しました。 はからずも びわ湖ホールの自主制作と同じであり 比較鑑賞が出来とても良い経験です。

年末・年始には メトロポリタン劇場・スカラ座のオペラ特集の放送があり 録画も出来ました。（録画は主人がしてくれました）

サポーターの 6 年の間に 多くの基礎講座に参加出来 沢山の事を学びました。感動・うるおい 視野が広がりました。

これからも びわ湖ホールで 感動を お願いします。 有難うございました。



## サポーター活動記録：

7期のサポーター3年終了時に……「人を育てるびわ湖ホール」であって欲しい「びわ湖ホールの音楽祭」が生まれれば夢の様です。

現状わかってない戯言とお許しください。…… etc. 書き連ねました。

OGとして通わせていただいている間に、『びわこホールの春』（枕詞として『ワラの春』（みんしヨク）騒動があり、いてもたってもいられず14期に応募しました。

間を置いたことで、新鮮にサポーター活動に取り組める気がしましたし、自主交流会も、とても盛会になってきていましたので、心躍る思いでした。しかし私は

自分が歳をとってた事を、すっかり忘れていました。お誘いする筈の周囲の人でもです

異口同音に「当日になるまでは約束が出来ない」「遠すぎて、足に不安が、。」

『夜の公演』もとても億劫になりました。無理矢理出掛けて、とても感動した時等、そのコンサートに感謝するのではなく、感動する心が未だあった自分を誉める始末。誠意を感じられなかった時は「時間を返して～～」と心の中で悪態をついてしまいます。

「あなたが行かれる時、びわ湖ホールに誘ってみてね。」と言われるものの、私の嫌いな〇〇×楽坊の好きな彼女を何に誘ったらよいのか？誘ったコンサートが気にいってもらえなかったらどうしよう、、、で、気の弱い私は躊躇してしまったり。H県のホール自慢をされると「聞きとうはない！」と（私はH県生まれ）びわ湖を弁護をするのですが、「びわ湖は傘無しで行ける？」ノケ外です。さらに追い打ち「ホールが人でいっばいと、『来て良かった』ったと幸せな気持ちになるわ。」サポーター形無しです。今回、一番気になり、目標としてた『取りまとめ』は全く出来ませんでした。ごめんなさい。気軽なお付き合いの方々とは、（奈良と関西の会場だけで、びわ湖のはありませんが）生協（ナユブ）のチラシで案内のある公演を検討してチケットを取ります。

静かに『びわ湖ホールサポーター』である事だけは（絶えず）叫び続けてきました。その御陰で、たまたま相席になった人と、オペラ談義（私は聞かせて頂く一方）になったり昔の音楽界を御存じの人と知り合ったりして百人百様の『音楽好き』がいる事がわかりました。本当に百人百様です。『目から鱗』体験もあれば、『目が点！』の音楽狂も。

巨匠や話題の音楽家を追っ掛けてたことも有りますが、最近無名の若い方の音楽会に行くようにもなりました。一生懸命勉強して、自分たちで企画して会を開いても、手弁当でノーギャラということで、「どんな状況でも『聴いてくれる人』がより沢山だと幸せ。」と。『音楽好き』が百人百様なら、『音楽家』も百人百様かなあと。微力ながら「これから成長する人」の為に役に立てる何か良い手立てはないかと、思案する日々です。

日本経済新聞の『私の履歴書』（2011.7.）で、小田島雄志氏が「今の沢山の肩書に加え日本演劇界名誉観客というのを付け加えていただきたい。」と書かれていました。〔演劇評論家の扇田昭彦氏の「観客とは招待状ではなく切符を買って見る人です。」の言葉と共に〕細く長くも賢い『観客＝切符を買って見る人』でありたいと思います。再びOGとして、仲間にくわえていただけたら幸いです。

P. S. 震災以降、日本の抱える問題は深刻で、音楽の行く末も不透明で、こんな能天気なレポートを書いている途中にも自己嫌悪に陥りましたが、一応、期の締めということで提出いたします。

14期：小林 美栄子

# 劇場サポーター活動記録

第14期 高橋 香奈

第14期劇場サポーターとして 3年間活動させていただきましたが

1年目は何をしたいのかわからず チラシを配布したり

チケットを取りまとめたりするのが精いっぱい

自主交流会に参加したいと思っていても 子供のいる身にとって難しく、

また 京都と滋賀の壁は厚いものでした。

音楽好きの人や公演に興味を持って下さった人から「チケット取って」とか

「おススメの公演があったら声かけてね」などと言われ

自分の活動が実感できるようになった2年目

楽しみながら 活動する事ができました。

チラシを配布する時にも 工夫したり、渡す相手の興味を事前にリサーチし付箋をつけるなど

ほんの少しでも…という気持ちでした。

ラ・フォルジュルネなど どんなイベントなのか分からず、参加して楽しませてもらうだけで終わってしまい、今にして

思えば「もったいない事をしてしまったな。ボランティア活動すればよかった」とも思いました。

残念ながら 3年目は息子の受験が重なってしまい 思うように活動ができず

「やり残してしまった」「もっと こうすればよかった」と後悔を残す結果となってしまい

はがゆい思いをしましたが、それでも最低限の活動をしつつ過ごしてきました。

その中でも ラ・フォルジュルネのボランティア活動をさせて頂けた事は

とても充実した楽しい活動でした。

来年は是非、もっと沢山のの人にこのイベントを知ってもらい、ホールに来て頂けるよう

PR活動をしたいと思っています

私個人が劇場サポーターとして活動してきて感じた事は

自分の出来る範囲での活動には限りがあるし、無理なく活動をしていく中で

楽しみながら活動した方がいいという事、

地道な活動を続けることで浸透し、広がりが生まれるのだという事を感じました。

そして、なにより 活動はしないよりした方がいいという事！！

ただ、音楽を聴きに行きたい、舞台を見たいと思っている人は意外と多いのに

実際にお金を払ってでも ホールに来てもらうのは なかなか難しいという現状。

ラ・フォルジュルネのように沢山のの人に気軽にホールに来て頂ける

企画を活かしたイベントがもっとあればいいのにと素人ながら思いました。

## 6年間のびわ湖ホール劇場サポーター活動を振り返って!!

第11期・14期 宮田政広

2005年秋に会社を早期退職し、次の人生の楽しみにしようと考えてびわ湖ホール劇場サポーターに11期から参加しました。それから早6年、その活動にいま別れを告げます。

\*11期に応募したときの動機「クラシック音楽鑑賞歴30余年、会社勤務リタイヤ後の余暇時間をサポーター活動に役立てたい。びわ湖ホールの良さと劇場芸術を心の和みの場にさせていただくためのお声がけをしたい」

\*14期の応募動機は「この3年間で高めていただいた舞台芸術への知識・楽しみ方や新たな人々との出会いで得た豊かな時間の過ごし方を益々もって深め・高める欲が増幅したこと、そこで得られたスキルを次代の皆さんへ繋げる力にしたい」

\*PR法は「チラシ配布・ロコミ&メールによる情報発信、自身の積極的な公演鑑賞と他のボランティア活動の人々につながっている輪をつかって広める」このような思いと手法でサポーター活動を始めました。以前、私はサポーター活動で五つの得をしたと報告をしたことがあります。

(1)知らなかった舞台芸術が知れたこと。(2)新しいお友達がいっぱいできたこと。

(3)相手の気持ちを推しはかる優しい心が芽生えたこと。(4)公演情報が先取りできてレアものチケットなどの購入に遅れをとらない。(5)サポーター活動することで、他者から自身を高く評価していただいた。等々、それらはいまも勿論感じています。これらは最初の3年間の活動で強く感じたものです。

しかし、14期からはこの五得感だけでは満足できず、ホールが目指す二つの創造活動(観客の創造)(舞台芸術の創造)にもっと関わることができないか?と思うようになっていきました。いや、いや、実際は先輩諸氏のそのような志の高い方々に洗脳されたと言うべきでしょうね(笑)。結果、思わされた?役立たせたい!役に立つのではないか?との幻影思考をホールにぶつけてしまい、一時は喧々譁々、青筋立てての激論戦わすようなこともありました。ホールのご理解や皆様 のやろうよ・やれるで〜え〜との力強いご支援などで、春・夏の二大イベント時に、簡単なボランティア業務をサポーターが他のボランティア仲間と一緒にお手伝いできるようになったと思っています。

また、私がサポーター活動でほんとうに良かったと思うのは、新しい人と人とが会うきっかけを作り、その新しいネットワークが大きくどんどん広がっていくことです。知人大勢懐入。ほんと、山のようにお友達ができますよ!(笑)。そのつながりから、また、新しい出会いができる、それが連鎖反動的に輪として広がっていきます。すばらしいことだと思いました。

その出会いをサポートしてくれるのが、自主交流会(ホール主催でなくサポーター自らが運営)であったと思っています。自ら名乗り出た世話役が、みんなに声掛けして、繋がりたい人の自由な情報発信やそのネットワークづくりをサポートするべく、定期的開催されました。まさに、サポーター同士が胸襟を開き、裸のお付き合いができる、気楽な情報や意見交換の場所でした。私は本当にこの自主交流会で「人と人とのネットワークで、びわ湖から広げよう、感動。」を実感してきました。ただ、昨今、この自主交流会活動に驕りが出てきているように思います。いま、サポーター活動を終えるにあたり、それが一番気がかりなんです。正直、現役サポーターさんの参加が芳しくありません。なんか、常連シニアのお友達会とされているようです。この点を現役サポーターが中心になって、改革していただけたら嬉しいですね。以上、サポーター活動6年間の振り返りました。みなさまには、たいへんお世話になりました。

ありがとうございました。明日からはホールに対して口うるさい観客になるでえ〜!(笑)

## 平成 23 年度 サポーター活動の一成功例と提案

15 期 宇高節子

本年もサポーターとして、公演前に舞台裏や関係者の方々の熱い思いに触れる多くの貴重な機会をいただきましたこと、本当にありがとうございました。

びわ湖ホールของサポーターとして、本年度の活動の中で、一番の成功例は、長年ボランティアとして関わっています京都のある養護施設の園児や先生方を「オペラへの招待 魔笛」にご招待したことです。

前回、子供向けの演目にご招待した時は、舞台を楽しむよりも周りの楽しそうな親子連れの姿に、寂しい思いをした年少さんたちがいて、心が痛んで、先生方と反省しました。この反省を踏まえて、今回は、年長さんたちを中心に日頃 決して恵まれているとは言えない労働条件のもとで昼夜一生懸命園児のお世話をされている先生方を「オペラへの招待 魔笛」にご招待しました。園児も先生方もオペラを見るのは初めてで、聞いたこともない素晴らしい生の歌声や音楽、夢いっぱいの舞台背景、日本語上演も親しみやすかったようで、全員が大満足で、興奮して帰って来たそうです。「途中で飽きて騒ぎだしたらどうしよう」という事前の心配は全く無用で、全員が舞台に引き込まれて夢中で見ていたそうです。(都合で一緒に行けなかったのが、とても残念でした)

びわ湖ホールは、滋賀県民の税金から補助を受けている公共施設ですから、滋賀県内の養護施設、障害者センター、老人ホームなど、日頃 質の高い生の舞台や音楽に触れる機会の少ない方々を時々ご招待・ご優待されてはいかがでしょうか？そうすれば、文化に税金を遣うことに対する県民のご理解もいただけるかと思うのですが、いかがでしょうか？

「サポーターとしての務め」

15期 佐々木泰子

「この湖ホールは素晴らしい」を一人でも多くの人に知ってもらいたいと思いはじめです。2年が過ぎようとしています。この湖ホールからのコネクションは言うまでもなく、このホールにも様々なアートホールの雰囲気、館長さん他、気さくに話しかけて下さる事、又、観客、或は、演奏者の「ソロード」等、サポーターの立場での休憩時間での話や、又、終演からの「ビール」を飲み下すの感想、全く音楽とは関係のないお話し々々、音楽のことばかりです。才力、演奏会、等「非日常的空間」これは、スタジオの中にある、とても大切な時間だと思えます。

今一つの音楽には特別な思いや、又音楽が好きだからと、ホールの事はあつと、いう方も結構多くいらっしゃる。けれど、「この湖ホール」の存在は、私達の接点の方で「何の言ひは」やはり、御存知です。だからホール迄足を運んで下さる方には、これからもしっかりお話しをと思っております。

「サポーター」に成るの持具が、基礎講座、これほどとも勉強になります。ただ、観望可能な音楽の場所、いろいろな角度からのお話しは音楽とより、深く理解の事かでございます。これからもしっかりお話し、致します。

## ☆ 劇場サポーター活動レポート

第15期 多比良 典子

レポートを出すのが恥ずかしいくらいたいした活動はしていません。職場や友人に口コミしたくらいなもの。個人的なことで恐縮ですが去年は資格を取るための講座を受講していて精神的な余裕がなく、サポーターの特権である年3回の観劇も一度は日時を間違えてしまって見ることはできませんでした。

ただ講座の会場がびわ湖ホール近くだったので何度かレストラン・オペラのランチを食べに行き、わずかながら売り上げに協力しておりました。(笑)

現在17期のメンバー募集が始まっており私も3年目に入りますが、他のサポーターの方とお近づきになれていないことが残念です。独りでコンサートに行くので、誰か他のサポーターの方とお話できたらいいなと思いつつ席につき隣近所を見渡すのですが、サポーターの方かどうかわからないので結局誰とも話すこともなく独りで行って帰ってきます。サポーターであることがひと目でわかるようなバッジとかあればいいのにと思います。

あとサポーター同士のコミュニケーションをとる場として、ミクシィのようなSNSでコミュニティを作ればいいのかと思います。

以上、たいした活動をしていないにもかかわらず、3期目もあつかましくサポーターを続けようと思っていますのでよろしくです。

～サポーター活動 2年目の思い～

第15期 中島早苗

サポーター活動も2年目。1年目は、とにかくびわ湖ホールのことを広めようと友人等に会うたびにびわ湖ホールのことを話したり案内を渡したりしていましたが、2年目のこの1年は、音楽に興味のある仲間たちにびわ湖ホールの情報を伝える、そんな活動が多い1年でした。

サポーター活動には、新たな観客を開拓する（音楽に日頃関わることのなかった人々にホールのことを口コミで広めホールに一度でも足を運んでもらう）ということと、情報を伝える（元々音楽やびわ湖ホールには関心があるにもかかわらずびわ湖ホールの情報が定期的に入ってこない人々に情報を伝える）ということの二つの活動があるように思いました。

近くに住んでいても、ふだんの生活では残念ながらまだびわ湖ホールの情報は自然には入ってきません。いまだにホールが何をしているのかわからない、そんな人々が多いのは残念なことです。いつのまにか自然に情報が入ってくる、そして「うーん、ちょっと一度試しに行ってみようか」と思う人々が増えてくる、そんなふうになることがこれからの課題のように思います。

びわ湖ホールは本当に素敵なホールです。すばらしいホールです。ホール入って正面に広がるあの素晴らしい景色を見るたび、そのあまりの美しさに感動します。このロケーションに、滋賀県に、景色だけでなく音までも最高のこのびわ湖ホールをつくってくださったことに心から感謝しています。

ロビーコンサート（無料）から本格的なオペラまで……。様々な公演があり、よりどりみどり……。この素晴らしい景色といっしょに楽しまないのはもったいないかぎりです。琵琶湖の景色と音楽 etc.……。この最高にすばらしいセットを楽しみにもっと多くの人々が県内だけではなく県外からも気軽に来てくださり、この美しさと素晴らしさの感動のミニトリップを体験して、心が癒されたり豊かになったり元気になったり……。そんなことが頻繁に起こるようになれば……。と願います。そして、びわ湖ホールと滋賀県の良さを感じていただければ嬉しいです。

## びわこホールで聴く、観るすばらしさ

第15期  
長谷川 百合子

”生演奏はすばらしい!“と思ったのは今年(2012年)の『長原幸太 with フレンズ』が記憶に新しいのですが、昨年(2011年)の『前橋汀子ヴァイオリンリサイタル』や『佐藤俊介ヴァイオリンリサイタル』『黒川侑リサイタル』等も、生演奏の良さを感じました。CDでは味わえない生演奏の迫力、演奏者と聴衆とのコミュニケーションのいずれも会場に行って聴くすばらしさを体験するに足りるものでした。

「劇場サポーター」になって本来のボランティアとしての活動は何も出来ていなく、申し訳なく思っています。それにもかかわらず、「研修チケット」を送っていただくと意気揚々と出かけ、帰宅してから“今日びわこホールに行き良かったなー”と相成ります。今の私は、「研修チケット」により普段足を運ばない『オペラ』『狂言』の公演に出席することにより日常の生活に潤いを感じて、びわこホールにまた行こう、聴こうと思っています。

音の響きが  
抜群だね

あなたの横で  
オペラにうっとり

# サポートしたいこと 伝えたいこと

チラシ配りる年目  
今度は何？って聞かれるわ

ヨットの白い帆  
びわ湖の夕日  
ロマンチックよ

カフェのランチが  
他所よりおいしい

愛  
d

15期 三谷裕子

## 劇場サポーター活動記録

15期 安木聖子

### サポーター5年目になりました

3年一区切りのサポーターの2クール目も2年目、任期はあと1年となりました。

私の鑑賞スタイルは、演奏がどう自分の体に響くかと、絶妙な間合いへの納得感を楽しむというものだったので、感動を言葉にできるようになりたいと思いながら鑑賞していました。そんな中での2011年12月18日(日)大ホールの「ケルティック・ヴォイス アヌーナ」は、湖面にそよ風がふいてさざ波が向こうからこちらに来るような、とはっきりと言葉にできるほどにあざやかに歌声がホール中に響き、大変感激しました。でも驚いたことに、そこまで表現できたのはホールの音響デザイナー小野隆浩さんから音響デザインとはどんなお仕事か、どんな効果が得られるのか、どういう効果を狙ってデザインしているのか、といったお話をたっぷりうかがっていたからなのです。

そういったわけで、フィーリング重視の鑑賞スタイルであっても、作者の生きた時代背景、演目のストーリーやその日の演出のエッセンスなどを知っておくことはとても大事なのだということ、それで鑑賞の面白さが大幅アップするのだということをお勉強しました。

そして近頃では、サポーター前半で知って印象に残っていた演出家が別の演目で再来訪したりして、鑑賞経験の点が線になってきました。もう少しで、お気に入りの演出家・作曲家・演目など…、線で追いたい舞台芸術に出会えるのではないかと次年度も期待しております。

### 自主交流会では…

昨年度に引き続き、今年度はOG寒蟬さんと一緒に主にパーティーの運営を担当しました。

パーティーは毎回ホールの職員の方もお招きしてホール隣接のお店で行いますが、もうお店とも顔なじみで、お店は貸切、余興のためにマイクやプレイヤーを存分に使わせていただきました。夏のパーティーではイントロクイズが大好評、冬のパーティーではびわ湖ホールにまつわるマニアックなクイズで盛り上がりました。両パーティーとも例年通りたくさんの方に参加いただきました。特に今年は、サポーター仲間のお歌や朗読、手品を多数の方にご披露いただけたのが、とてもうれしくまた印象的でした。参加されたみなさま、ご協力ありがとうございました。

16期・17期のみなさま、自主交流会のパーティーにて新しいお友達作りをしませんか？今後もより参加しやすい雰囲気にしていきたいと考えていますので、ぜひご要望をお聞かせください。

### ファンをふやす・・・

「点を線にする」というとらえ方でファンを増やす方法として私は、地域のサークルの作品展や小学生の書道展などにロビーを貸し、まず一度足を運んでもらえないかということと、なにかホールに通える習い事、合唱クラブなどが設置できないか、ということをお提案していました。

今年は私自身の会社で行事をプロデュース、まずはホール特典で割安になったチケットを用いてまず1回ホールに来てもらう、ウケれば行事は継続、参加者のホール通いが始まるかも、参加者同士の新しい趣味仲間ができるかも、ということをやってみようかと思えます。

サポーター1年生

第16期  
古賀 富士夫

芸術鑑賞には全く縁のない人生を送ってきた事を振り返り、一步一步深めていけたらいなと思っています。

チラシは地元自治会員の回覧と支所に置かせていただいた。

ラ・フォル・ジュルネ（L F J）では沢山のお客様の来場をいただき、大変感激しました。

L F J ボランティアはチラシ案内と震災募金 P R を担当しましたが、最初にしては対応できたかなと自己満足しています。

接客に不慣れなサポーターの方もおられると思いますので、事前に多少のレクチャが必要かと考えました。

今年の L F J も参加させていただき、昨年よりもお客様に喜んでいただくようにボランティアを努めます。

早いもので、サポーターになって1年になろうとしています。

なんだか解らないけれど、チラシ配るくらいなら出来そう、と思ってはじめてのですが、勉強会や交流会など、けっこういろいろ活動されていたので驚きました。

魅力的な基礎講座もあったのですが、仕事と重なることが多く、行けなくて残念でした。サポーターならではの興味深い企画には、次回なんとか参加したいと思っています。

私の活動としては、友人知人にチラシを配り、びわこホールって、こんなこともあんなこともしてるんだよ！と、公演の内容だけではなく、サポーターの活動についても我ながら熱く話してきたと思います。自身のブログで取り上げたりもしました。

なにより、私が驚いたからかもしれません。

地元のホールがなかなかいいホールだということに、何で今まで気付かなかったのか！

いろんな舞台を、京都や大阪、時には東京にまで出かけて観に行ったのに、びわこホールには、あまり興味を感じなかった。もったいない！

これって、私のびわこホールについての知識の無さもありますが、PRも下手なんじゃありませんか？

難しいことはよく解らないけれど、劇場の音が素晴らしい気がします。

景色は自慢していいですね。時間つぶしの散歩にもいいです。

公演の後先の食事等、周辺は、正直まだまだ魅力がないと思っていますが。

これからも、微力ながらPRのお手伝いが出来ればと思っています。

そして舞台芸術に関してのいろんな知識を惜しげもなく与えてくださる企画を考えていただけることに、感謝します。

## 劇場サポーター1年目を振り返って

2012年2月15日

16期 泰地和夫

クラシック音楽の底辺を広げるためにあれをやろう／これもやろうと意気込んでスタートしたサポート活動ですが、1年目を終えるに当たり振り返ってみますと、サポーターとしての活動よりも公演鑑賞研修・各種研修・自主活動等々から享受した恩恵の方が遥かに大きかったと反省しています。

滋賀県は地元であり県内のサポーターの方が大勢いらっしゃいますので、京都・大阪・兵庫の近隣府県の友人・知人を対象に更には彼らの知人に紹介を行ってきました。殆ど全員がびわ湖ホールの名前をご存知でしたが公演の内容などあまり詳しくはご存じなく、交通の便がちょっと.....と思われているのが現実。素晴らしい自然環境にあるびわ湖ホールを実際に見てもらおうのもひとつのきっかけと思い、都合が合えばロビーコンサートやプレトーク・マチネにもお連れして良さを肌で感じてもらっています。その効果の程はまだ微々たるものですが、体験された方々からの口コミによっても少しずつでも広がっていくことを願っています。

ご存知の通り、NHKの長寿番組「N響アワー」がついに3月で終了し、4月からはテレビでは「ららら♪クラシック」、FMラジオでは7つのクラシック音楽関係の番組が始まります。いずれの番組も「クラシック音楽を親しみやすく、分かりやすく」を目指しており、ラジオに出演される錦織健さんは「オペラは難しいところもあるが、ショックを受けるほどの魅力があるので、分かって頂けるような番組にしたい」とおっしゃっているそうです。これはまさにびわ湖ホールの目指すところと同じではないでしょうか。公開放送をびわ湖ホールで..... 何かコラボできれば最高ですね！

## びわ湖ホールに出会って

第16期 津田 光子

親しい友人の誘いで、劇場サポーターを経験させて頂く機会に恵まれ、感謝でいっぱいです。おかげで、びわ湖ホールがとても身近な空間に感じられるようになりました。言いかえれば、今まで、近くて遠い存在だったことが今さらながらもったいなかったと悔やまれます。大ホールでの佐渡裕指揮のベルリン放送管弦楽団の演奏に興奮し、クリスマスのアイルランド、ケルト音楽の荘厳で清楚な歌声に酔いました。また、壮大なびわ湖が見渡せるロビーは、圧巻です。窓の外、湖から飛び立つ鳥たちを眺めながら、聞かせて頂いたロビーコンサートは本当に贅沢でした。

私がこのサポーターとして、何ができるだろうと考えたとき、やはりびわ湖ホールをもっと県外の友達にアピールすることではないかと思い、微力ながら実行しました。

大阪や京都の演奏会には出かけるが、びわ湖ホールの存在は知ってはいるけれどとても遠いというイメージを持つ人が意外と多いことに驚きました。演奏会情報とともに、ホールまでのアクセスなどをもっと宣伝することが大切だと感じました。

現在、私自身、大阪の音楽団体に参加していますが、演奏会場の確保に苦労することもしばしばです。演奏会場、劇場として、もっとびわ湖ホールが滋賀県だけでなく、関西の多くの人々の身近な場になることを願っています。

来期は、もっとびわ湖ホールを広く、深く、感じたいと思います。

## サポータ1年生を終えて

第16期 船越千明

大津市のマンションに引越してから早や一年が経ち、近くにある「びわ湖ホール」に何回か足を運ぶうちにサポータになってみようという熱い想いが湧き、願いがかなって同じく一年が過ぎようとしています。マンションのなかに少しずつ知り合いもできてチラシを手渡しています。去年は、歌舞伎や狂言などを楽しみました。花道や橋掛かりも上手にできていて音の響きも良かったと思います。また、アヌーナも鑑賞させて頂きロウソクの光と清らかな歌声がとても良かったです。隣席が先輩のサポーターの方だったので色々と教えて頂きました。次回は、タンホイザーを鑑賞する予定ですが、レクチャーにも参加して知識を色々と吸収してからと思っています。まだ駆け出しの私ですが多くのサポーターやスタッフの皆様を支えられてこれからも頑張りたいと思います。

---

発行 **公益財団法人びわ湖ホール**

発行年月 平成24年3月

〒520-0806 大津市打出浜 15-1

TEL 077-523-7133 FAX 077-523-7147

URL <http://www.biwako-hall.or.jp/>

---